

安楽寺だより 第13号

〒105-0014 東京都港区芝1丁目12-18 電話：03-3451-1509 FAX：03-3798-2238

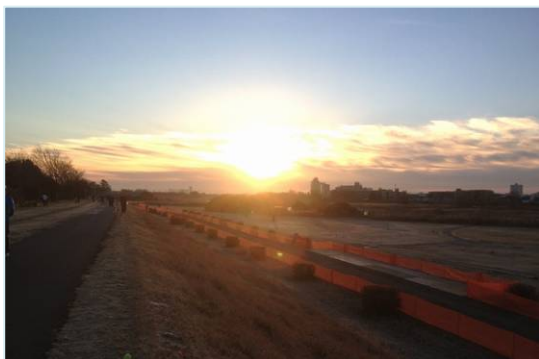
発行者：藤澤 克己（安楽寺住職） ホームページ：<http://homepage2.nifty.com/anakuji/>

（安楽寺だよりは1月・4月・7月・11月の各15日に発行します）

寒い季節 お大事にお過ごしください

平成25(2013)年という新しい年を迎えました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

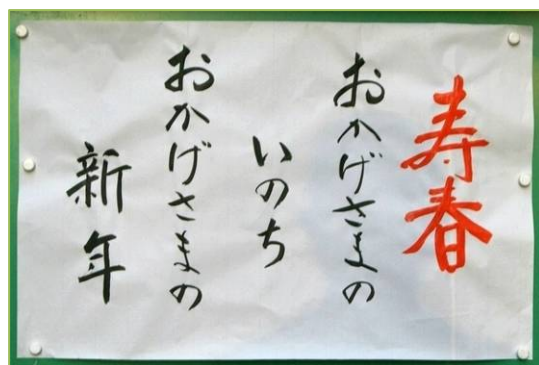
くっきりとした初日の出は見られませんが、雲の向こうに力強く輝いている太陽の確かな存在を頼もしく感じることができ、落ち着いた気持ちになりました。



（多摩川河川敷で見た元旦の朝日）



私たちの暮らすこの社会は、残念ながら必ずしも明るく安心できるものではありません。



しかし、「確かなもの」を心の内に留めて過ごすことで、周りに流されず踊らされず、また縛られもせず、自分らしく心穏やかに過ごすことができるのではないのでしょうか。

みなさんは、何を「確かなもの」として大切にされていますか。



これからまだしばらく寒い日が続きます。風邪などをひかぬようお身体には十分気をつけてお過ごしください。

《あれこれ抄》
▼冬の「安楽寺だより」をお届けします▼昨年の世相を表す漢字は公募で最多得票の「金」と報道されました▼オリンピックの金メダルや金環日食などがその理由でしょうか▼あるいは一筋の光明を見つけたかという希望の表れかもしれません▼成人の日は思いがけない大雪に見舞われました▼寒い日もあれば暖かい日もあるのが自然の摂理ですが、晴れ着姿の新人人には、厳しい一日でした。▼前住職は前号でもお伝えした日課のウォーキングを継続中です▼歩いた距離を積算すると、最近では東海道を日本橋から浜名湖辺りまで歩いたことになるそうです。▼おかげさまで寺の者はみな元気に新年を迎えることができました▼今年もどうぞよろしく願います。

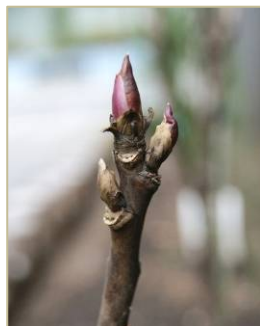
報恩講法要をお勤めしました

さる11月9日、安楽寺「報恩講法要」のお勤めをしました。正信偈のお勤めに引き続いて南條了元師（中央区法重寺ご住職）のお話を聴聞させていただきました。

いつもお参りされる方だけでなく、久しぶりの方や初めての方がいらして、和やかに温かな雰囲気を楽しみました。



《季節の風景》



総追悼法要のお勤め

12月23日（日）に安楽寺総追悼法要をお勤めしました。この一年間に亡くなった方々の合同追悼法要として毎年12月中旬に行っています。

4家族7名の方にご参列いただきました。お勤めに先立って浄土に往生された方々のお名前を尊前に奉告し、故人の遺徳を仰ぎつつ仏説無量寿経（讚仏偈）を一緒に唱えました。

法要後にはロビーで語り合う時間を持ちました。亡くなった方との思い出を紹介していただくなど、それぞれに偲ぶ時間を過ごしていただけたことと思います。

【みなさんに知っていただきたい言葉】

以和為貴 （ 和を以（もつ）て
貴（とうと）しとなす ）

すでにご存じの言葉と思います。親鸞聖人が「和国の教主」として尊敬される聖徳太子は仏教精神を基盤にして日本を平和に治めようと『十七条憲法』を制定されました。その第一条はこの「和をもって貴しとなす」という言葉で始められています。

“和する”ことが良いと分かっているにもかかわらず出来ないので、改めて「貴い」と示されたのではないのでしょうか。自分も周りも「ともにこれ凡夫のみ」（第十条）と、お互いにみな不完全な存在だと示されていることが、“和する”ための出発点かもしれません。

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) について

浄土真宗本願寺派では「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を展開しています。
“自他共に心豊かに生きることのできる社会、
 の実現のため、寺院が核となって具体的な社会貢献を目指していきます。東京教区として「一人ひとりが大切にされる場所作り」を目標に設定しました。

お寺をご縁という人と人の不思議なつながりを確認し合う**“場、**として使っていただき、安心感を感じられる世の中に寄与したいと思います。



年回法要(法事)について

年回法要(法事)は亡き人を縁として行う「**仏法の行事**」で、故人の面影を偲びつつ、いま生かされている私たちの生命の行方に思いを馳せる時間です。

亡くなられた翌年のご命日の頃に一周忌の法事をお勤めした後は、三回忌、七回忌、十三回忌、十七回忌といったようにお勤めするのが一般的です。ご門徒のみなさまには二カ月前を目安にご連絡するようにしていますが、今年が年回忌に当たる場合にはご予定いただければと思います。

いまは亡き人に縁のあった方々が本堂の阿弥陀如来の前に座ってお勤めするとき、

平成25年(2013)年回表										
五十回忌	三十七回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌	年回忌
昭和39年	昭和52年	昭和56年	昭和62年	平成3年	平成9年	平成13年	平成19年	平成23年	平成24年	亡くなられた年

すでにお浄土に生まれた仏さまは、見守りながら、私たち一人ひとりに願いを掛けてくださっていると思えるのではないのでしょうか。お互いのつながり(縁)を確かめあっていただければと思います。

【書籍紹介】 (シリーズ第三弾です)

『そっと後押し きょうの説法 其の三』

(幻冬舎・そっと後押し僧侶の会著・1100円+税)

早朝テレビ番組「きょうの説法」というコーナーで紹介された話のうち昨年4~7月放映分の69話が収められています。住職も4月に登場させていただきました。

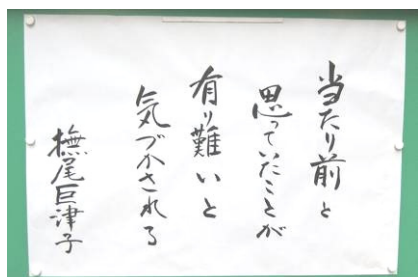
＜採録されている話の例＞

あなたらしく感じる/対立してとらえず認め合う/
 大いなる流れを作る かけがえのない“いのち” 等

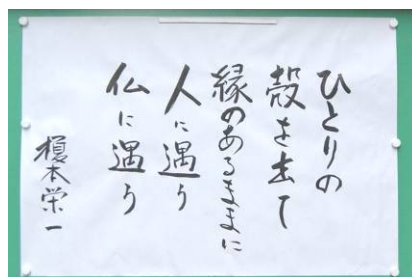


月々の言葉 ～安楽寺 伝道掲示板から～

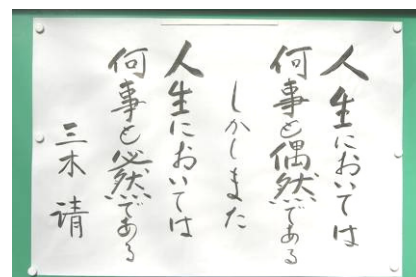
お寺の入り口に、その時々のお寺の言葉を掲げています。(1か月毎)



2012年11月



2012年12月



2013年1月

「定例法話会」のご案内

毎月第3日曜日の午後3時～、定期的に法話会を開催しています。その月の伝道掲示板の言葉をもとに、お釈迦さまのお話や浄土真宗のみ教えをともに学ばせていただくと思っています。

これまでの法話会では例えば次のようなお話をしました。

- 「当たり前と思う心」が「ありがとう」の反対で、積もれば不満になる
- 「なんでこんな酷い目に遭わなければいけないんだ」という閉じ籠りの“殻”から出てみようと思立つ
- 「会う」とは偶然の思いがけない慶びの出会い (よき教え、よき師、よき仲間)

【定例法話会の今後の予定】

よろしければいつでもご参加ください

1月20日(日) 午後3時～

2月17日(日) 午後3時～

3月17日(日) 午後3時～

《築地本願寺 本堂修復慶讃法要》



11月10日に築地本願寺本堂修復慶讃法要が行われました。

きれいに修復された本堂は凜とした空間を創り出し、東京教区内から集まった僧侶は厳かな気持ちで法要に臨みました。満堂の参列者も一緒に正信偈をお勤めしました。

住職は結衆という役目をいただき、七条袈裟という衣体で本堂内陣に出仕し、無事お勤めすることができました。

(写真上：結衆として堂内を参進中)



「春の彼岸会法要」のお知らせ：3月20日(水)

来たる3月20日(水)は春のお彼岸のお中日です。午後1時から本堂にて「正信偈」のお勤めし、引き続いて「正信偈」の言葉を“読み・聞き・味わう”時間を持ちます。どうぞお誘い合わせの上、みなさんでお参りください。お待ちしております。